

平成31年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (中学校)
 教科ごとの「教科の観点」における平均正答率の比較

松江第五中学校

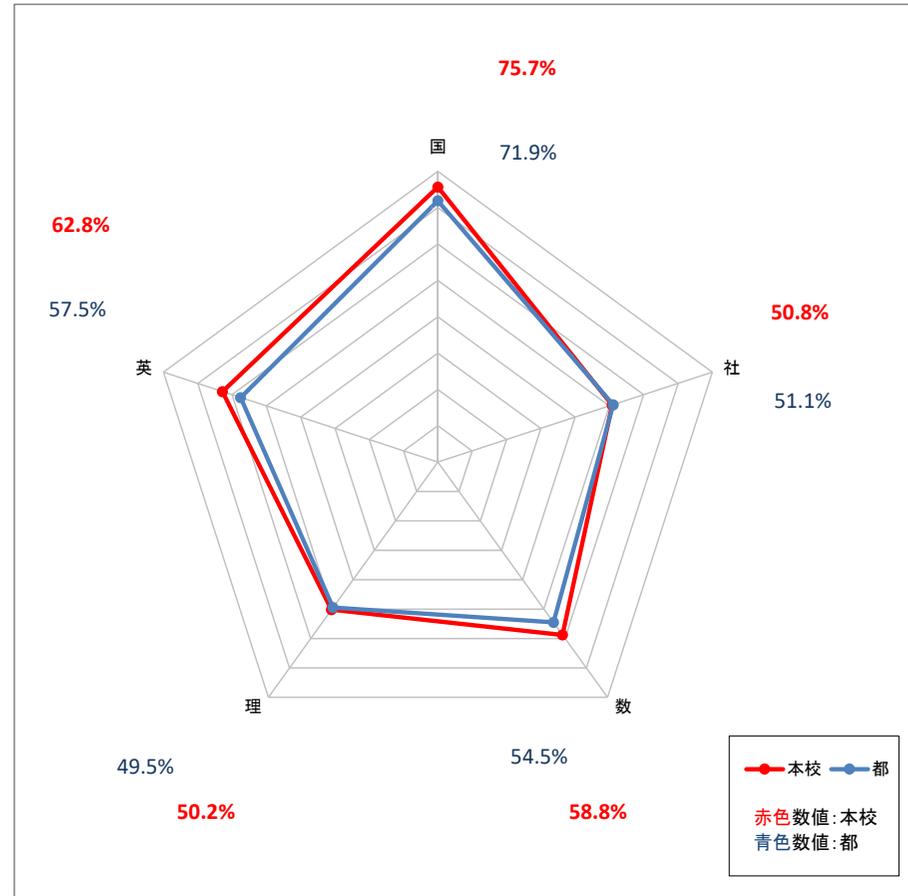
| 国語 | 教科の観点 | | | | 教科の合計 |
|------|---------|-------|-------|-----------------|-------|
| | 話す・聞く能力 | 書く能力 | 読む能力 | 言語についての知識・理解・技能 | |
| 東京都 | 74.8% | 58.9% | 79.3% | 69.1% | 71.9% |
| 本校 | 78.6% | 62.2% | 83.3% | 72.7% | 75.7% |
| 都との差 | 3.8 | 3.3 | 4.0 | 3.6 | 3.8 |

| 社会 | 教科の観点 | | | 教科の合計 |
|------|--------------|---------|-----------------|-------|
| | 社会的な思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 社会的事象についての知識・理解 | |
| 東京都 | 48.7% | 61.9% | 41.1% | 51.1% |
| 本校 | 47.0% | 66.3% | 36.9% | 50.8% |
| 都との差 | -1.7 | 4.4 | -4.2 | -0.3 |

| 数学 | 教科の観点 | | | 教科の合計 |
|------|------------|--------|-------------------|-------|
| | 数学的な見方や考え方 | 数学的な技能 | 数量や図形などについての知識・理解 | |
| 東京都 | 31.4% | 62.4% | 63.3% | 54.5% |
| 本校 | 33.0% | 71.2% | 62.0% | 58.8% |
| 都との差 | 1.6 | 8.8 | -1.3 | 4.3 |

| 理科 | 教科の観点 | | | 教科の合計 |
|------|-----------|----------|----------------|-------|
| | 科学的な思考・表現 | 観察・実験の技能 | 自然事象についての知識・理解 | |
| 東京都 | 43.9% | 60.2% | 47.4% | 49.5% |
| 本校 | 45.3% | 60.8% | 47.7% | 50.2% |
| 都との差 | 1.4 | 0.6 | 0.3 | 0.7 |

| 英語 | 教科の観点 | | | 教科の合計 |
|------|----------|----------|-----------------|-------|
| | 外国語表現の能力 | 外国語理解の能力 | 言語や文化についての知識・理解 | |
| 東京都 | 46.1% | 62.4% | 59.2% | 57.5% |
| 本校 | 53.4% | 64.2% | 69.4% | 62.8% |
| 都との差 | 7.3 | 1.8 | 10.2 | 5.3 |



《都との比較にみる本校の状況》

国語：教科の観点は都の平均と比べて+3.3から+4.0となり、教科の合計も+3.8であった。
 社会：教科の合計で-0.3と5つの教科の中で唯一マイナスになってしまった。特に社会的事象についての知識・理解は-4.2と大きかった。
 数学：数量や図形などについての知識・理解が-1.3となったが数学的な技能は+8.8と高かった。教科の合計も英語に続いて+4.3と高かった。
 理科：教科の観点はどれもプラスになっているが教科の合計で+0.7と微増になった。
 英語：3つの観点ともプラスとなったが言語や文化についての知識・理解はすべての教科観点の中で+10.2と都を大きくオーバーした。

《授業改善のポイント》

国語：①定期テストの分析を進め、基礎力向上のため漢字は定期的に実力テストを実施し、文法は補助教材を活用する。②考える力を養うため授業中の発表は全員が受け答えるよう設定した。また、短文作成の機会を増やし書く力の向上を図る。
 社会：①知識・理解について授業中学習した内容を定着させるために、単元ごとにこまめに課題を提出させる。②放課後補習などを定期的に設け質問しやすい環境を整えることで自主的に課題に取り組む姿勢を養う。
 数学：①知識理解の力を伸ばすために、授業の中で語句の復習を取り入れるなど、スパイラル学習を意識した授業づくりを行う。②思考力をより伸ばすため、授業者が解法をすぐに教えるのではなく、生徒自らが問題解決の方法を考える時間をとる。
 理科：①以前は宿題で提出させることが多かったが、問題集の学習を授業内で行うよう時間を確保し、無理なくできるような配慮する。②学習内容に応じて基礎的な事柄の定着を図る小テストを行う。③実験・観察の技能を身に付けるための実技テストを行う。
 英語：①読解力を付けるために、授業で様々なジャンルの英文を読ませ、英文を読むことに抵抗をなくし、どんな長文にも対応できるように練習していく。②表現力をさらに高めるために、与えられたテーマに沿って、自分の意見や考えをまとめた量の英文が書けるように練習時間を増やす。③家庭学習の定着を図るために、定期的に単語テストを行う。ワークやプリントなどの課題を出し、習ったことの復習をする時間を確保する。④習った英語を実際に使う機会を増やすためにも、ペアワークやグループ活動、スピーチを積極的に行っていく。

《家庭・地域への働きかけ》

授業だけの学習では理解度を高めることは難しく、各教科に質問教室を設けたり、学び合いの時間を設定している。また、各単元ごとに小テストを実施し定着を目指している。
 各教科の学習内容を定着させるためには、学校だけでなく家庭での学習習慣がついているかが重要である。各教科で自習ノートやワーク、宿題やノートの提出を促している。
 家庭学習を毎日1時間以上行っている生徒は、24%いるが、まったく学習する習慣のない生徒も14%いる。今後も家庭学習の大切さを伝え、保護者に協力を依頼する。
 地域への働きかけについては、生徒たちはボランティアの意識が高く、校内清掃ボランティアには90人を超える生徒が集まった。地域のおまわりボランティアにも複数のボランティアが参加し、高齢者施設へのボランティアには40人を超える希望があり、事前準備で合唱の練習やクイズを考えたり、折り紙を折ってプレゼントする準備を行っている。地域の一員として認め励ますことで自己肯定感が高まり、学習に対する意欲も高まると考える。地域や本人のためにも声掛けを続け、開かれた学校を目指す。